

「徳島県経済グローバル化対応基本方針」の骨子（素案）

1. 策定の考え方

「TPP11」や「日EU・EPA」をはじめとする世界最大規模の経済圏の形成が間近に迫りつつある中、「徳島ならではの」の強みを活かし、世界を相手とした経済活動の広がりを確実なものとし、本県産業の成長産業化に向けて、「守り」をしっかりと固めつつ、「攻め」をさらに強化し、守りから攻めに転じていくための「徳島県経済グローバル化対応基本方針」を新たに策定する。

2. 基本方針の骨子（素案）

（1）県内産業の競争力強化

「多様な人材の育成・確保」や「スマート農林水産業^{注1)}の実装」などによる「生産現場の強化」と、AI、IoT等の最先端技術を活用した「新製品・サービスの開発支援」や「生産基盤の整備」などによる「国際競争力の強化」

○県内企業の飛躍を支える体制整備

- ・「新製品・新技術」の開発支援
- ・企業の「生産性向上」

○活力ある農林水産業の構築

- ・次代を担う多様な「人材の育成・確保」
- ・「スマート農林水産業の実装」
- ・強い産地づくりに向けた「生産基盤の整備」
- ・「6次産業化」の更なる推進
- ・サイエンスゾーンを核とした「オープンイノベーション^{注2)}創出」
- ・市場競争力強化に向けた「ブランド化の促進」

（2）輸出促進による海外展開の推進

県内企業や農林水産事業者の「新たな市場開拓」の支援と、農林水産物を中心とした「輸出品目の拡大」による「海外展開の推進」

○県内企業の新市場開拓のための支援強化

- ・「海外進出や輸出拡大」のための機会創出
- ・中小企業の「海外展開」への総合支援
- ・「藍・LED活用製品」の事業展開促進

○農林水産物・加工食品の輸出強化

- ・「アジア」、「EU諸国」への輸出拡大
- ・「新規市場」の開拓
- ・「GAP^{注3)}・HACCP^{注4)}・ハラール^{注5)}」等の認証取得支援

(3) インバウンド誘客の促進

現地メディアやSNSを活用した「効果的な情報発信」による「認知度向上」や、外国人旅行者の安全で快適な旅行を支援する「受入環境の整備」による「インバウンド誘客の促進」

- ・「情報発信力」の強化
- ・「受入環境の整備」促進
- ・「誘客コンテンツ」の充実強化
- ・地域資源の磨きあげ・ブランド化

(4) 輸入食品対策の推進

海外からの輸入食品の増加に向けた、食品安全に関する「リスクコミュニケーション^{注6)}の実施」や、消費者の食の安全確保に必要な「情報提供」、輸入食品の適切な「監視指導」による「輸入食品対策の推進」

- ・食品の安全に関する「情報提供」
- ・輸入食品に関する「監視指導」

注1) 「スマート農林水産業」

AI, IoT等の最先端技術を活用し、超省力・高品質生産を実現する新たな農林水産業

注2) 「オープンイノベーション」

産学官が連携し、それぞれが持つ強みとアイデアを組み合わせた、革新的な技術の創出

注3) 「GAP」

(Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理)

農産物の安全性や環境保全、労働安全などに配慮しながら、農業生産の持続的な改善につなげていく取組

注4) 「HACCP」

(Hazard Analysis and Critical Control Point: 危害分析・重要管理点システム)

食の製造・加工・保管・消費に係るあらゆる危害を特定し、リスクを評価し、その防止のための管理を確立するシステム

注5) 「ハラール」

イスラム法によって、「許されたもの」を意味し、飲食が許された飲食物（ハラール）

注6) 「リスクコミュニケーション」

消費者、事業者、研究者、行政担当者などの関係者の間で情報及び意見を相互に交換すること